

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

ソルクシーズ

4284 東証 1 部

企業情報はこちら >>>

2018 年 11 月 26 日 (月)

執筆：客員アナリスト

佐藤 譲

FISCO Ltd. Analyst **Yuzuru Sato**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 2018 年 12 月期第 3 四半期累計業績	01
2. 2018 年 12 月期業績見通し	01
3. 注力分野の動向	01
■ 事業概要	02
■ 業績動向	04
1. 2018 年 12 月期第 3 四半期累計業績の概要	04
2. 2018 年 12 月期業績見通し	05
■ 注力分野の動向	06
1. FinTech	06
2. IoT	07
3. クラウドサービス	07
4. 自動運転	08
5. AI	08
■ 中期 3 ヶ年計画	09
■ 株主還元策	10
■ 情報セキュリティ対策	10

ソルクシーズ

4284 東証 1 部

2018 年 11 月 26 日 (月)

<https://www.solxyz.co.jp/investment/ir-news/>

要約

不採算プロジェクトの収束を今期中に終え、 通期では期初計画どおりの営業増益を目指す

ソルクシーズ<4284>は、金融業界向けを中心としたソフトウェア開発を手掛け、子会社に業界特化型の IT 企業を持つ。そのうちの 1 社であるエクスマーシオン<4394>が 2018 年 7 月に、また、出資先企業であるイーアイ<4388>も、同年 6 月に東証マザーズ市場に上場している。

1. 2018 年 12 月期第 3 四半期累計業績

10 月 31 日付で発表された 2018 年 12 月期第 3 四半期累計（2018 年 1 月 -9 月）の連結業績は、売上高で前年同期比 10.5% 減の 9,448 百万円、営業利益で同 17.2% 減の 234 百万円、経常利益で同 47.5% 減の 239 百万円となった。主力の SI/ 受託開発業務において、前期から継続している不採算プロジェクトの収束に時間を要していること、子会社でも大型案件の期ずれの影響が残ったことなどが減収減益要因となった。また、営業外で前年同期に計上した投資事業組合運用益 144 百万円がなくなったことにより、経常利益の減益率も拡大している。

2. 2018 年 12 月期業績見通し

2018 年 12 月期通期の連結業績は、売上高で前期比 2.9% 減の 13,600 百万円、営業利益で同 21.8% 増の 610 百万円、経常利益で同 10.7% 減の 610 百万円と期初計画を据え置いた。当第 4 四半期までに当該不採算プロジェクトが収束するほか、子会社の期ずれ案件も売上計上する見込みとなっているためだ。子会社の中でも、自動車業界向けに開発コンサルティングの引き合いが旺盛なエクスマーシオンや、IoT ソリューション等の受託開発を手掛ける（株）イー・アイ・ソルが好調で、単独業績の落ち込みをカバーする格好となる。リスク要因は、売上高で数億円規模となる不採算プロジェクトの動向となる。当該プロジェクトの開発に関しては既に終えているが、プロジェクト収支の決着が 2019 年にずれ込むようだと業績の下振れ要因となる可能性がある。

3. 注力分野の動向

同社は、FinTech、IoT、自動運転、AI、クラウドを重点 5 分野として位置付け、積極的な事業展開を進めている。FinTech 分野ではブロックチェーン技術を活用したシステム開発の受注獲得に取り組んでいるほか、2018 年 7 月に資本業務提携を発表したジーフィット（株）の FX 用システムトレード運用サービス「シストレクラウド」の開発支援等を計画している。IoT 分野では見守り支援システム「いマイルモ」やイー・アイ・ソルの「IoT/ 予知保全システム」の受注拡大を目指す。クラウドサービスでは、2018 年 10 月に企業向けオンラインストレージサービス「Fleekdrive」が海外市場で初めて採用されたことを発表しており、今後、海外での受注拡大が期待される。自動運転分野についてはエクスマーシオンの受注が好調に推移し、AI 分野では出資先の（株）アックスの技術を自社製品・サービスに活用していく方針となっている。同社は 3 ケ年の中期経営計画として、2020 年 12 月期に売上高で 14,500 百万円、経常利益で 1,100 百万円を掲げているが、これら重点 5 分野を拡大していくことで達成していくことになる。

ソルクシーズ
4284 東証 1 部

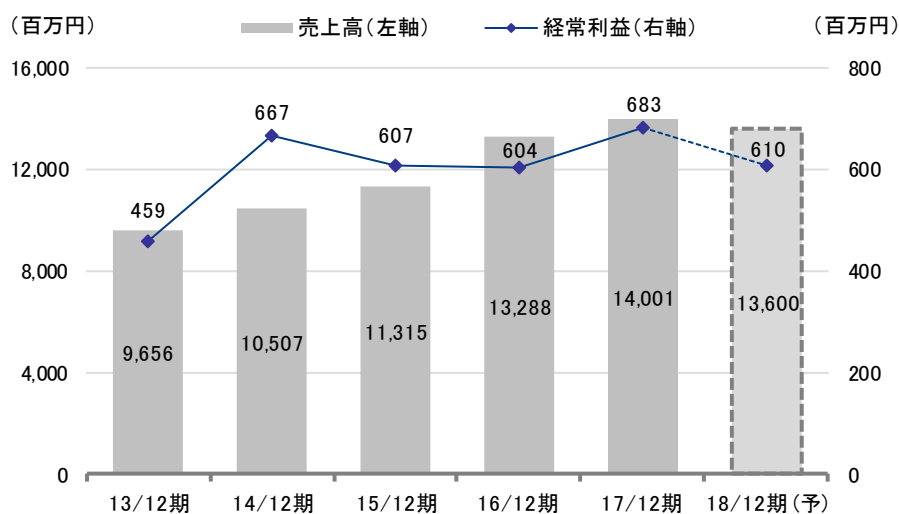
2018 年 11 月 26 日 (月)

<https://www.solxyz.co.jp/investment/ir-news/>

Key Points

- ・不採算プロジェクトの収束や期ずれ案件の売上計上により、当第 4 四半期に収益が回復、通期では 2 期ぶりの営業増益に転じる見通し
- ・FinTech、IoT、クラウド、自動運転、AI 分野を重点戦略分野に積極展開進める
- ・2020 年 12 月期に連結経常利益 1,100 百万円を目指す

業績の推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

事業概要

金融業界向けを中心としたシステム開発事業が主力で、業界特化型の子会社展開を進める

同社は金融業界向けを中心とした SI/ 受託開発業務及びそれに付随・関連したアウトソーシング業務、パッケージソフトの開発・販売などのソリューション業務、情報機器販売業務を行っており、金融業界向けが単独売上高の 7 割強、連結売上高の 5 割強と高いことが特徴となっている。

ソルクシーズ

4284 東証 1 部

2018 年 11 月 26 日 (月)

<https://www.solxyz.co.jp/investment/ir-news/>

連結対象子会社はソフトウェア開発事業で 9 社、デジタルサイネージ事業で 1 社の構成となっている。このうち、ソフトウェア開発事業に関しては事業領域ごとに専門化し子会社展開している。主要子会社では、(株)エフ・エフ・ソルが銀行向けの受託開発を、(株)コアネクストが証券バイサイド向けの業務システムの開発・保守等を主に行っている。また、(株)アスウェアは ICT インフラの企画・構築・保守業務を、イー・アイ・ソルは組込・制御・計測関連分野での受託開発、ソリューション業務をそれぞれ展開しており、これらの子会社は開発面において同社と取引関係がある。一方、同社から独立して事業を展開している子会社として、自動車業界向けを中心にソフトウェア開発のコンサルティングサービスを行うエクスマーシオンや、自動車教習所向けに教材システム及び情報システムを提供する(株)ノイマン、商業施設やアミューズメント施設向けにデジタルサイネージやセキュリティシステム等の設計・工事・保守等を行う(株)インターディメンションズがある。なお、エクスマーシオンは 2018 年 7 月に東証マザーズ市場に上場し、同社の出資比率は 85.7% から 61.0% に低下したが、今後も連結対象子会社として維持する方針となっている。

関係会社 (事業内容、出資比率)

連結子会社	出資比率 (%)	事業内容
ソフトウェア開発事業		
エフ・エフ・ソル	95.9	銀行系に特化した受託ソフトウェア開発
イー・アイ・ソル	100.0	組込・制御・計測関連ソフトの開発、販売、その他サービス
インフィニットコンサルティング	100.0	システム開発の上流工程におけるコンサルティング
teco	100.0	Web マーケティングに関するコンサル・企画、Web サイトの開発・運用・保守
ノイマン	100.0	自動車教習所向けシステム、e ラーニングサービス
エクスマーシオン	61.0	自動車・医療機器メーカー等へのソフトウェア開発支援コンサルティング
コアネクスト	100.0	証券バイサイド向けの受託ソフトウェア開発
アスウェア	100.0	ICT インフラの企画・構築・保守
アセアン・ドライビングスクール・ネットワーク	67.7	ベトナムでの自動車運転教習所運営
デジタルサイネージ事業		
インターディメンションズ	100.0	AV・セキュリティシステム等の設計・導入・保守、デジタルサイネージ・映像コンテンツ制作

出所：決算短信補足資料よりフィスコ作成

ソルクシーズ
4284 東証 1 部

2018 年 11 月 26 日 (月)
<https://www.solxyz.co.jp/investment/ir-news/>

業績動向

不採算プロジェクトの収束や期ずれ案件の売上計上により、
当第 4 四半期に収益が回復、
通期では 2 期ぶりの営業増益に転じる見通し

1. 2018 年 12 月期第 3 四半期累計業績の概要

2018 年 12 月期第 3 四半期累計の連結業績は、売上高で前年同期比 10.5% 減の 9,448 百万円、営業利益で同 17.2% 減の 234 百万円、経常利益で同 47.5% 減の 239 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益で同 67.3% 減の 86 百万円と減収減益決算となった。

2018 年 12 月期第 3 四半期累計連結業績

(単位：百万円)

	17/12 期		18/12 期					
	3Q 累計 実績	対売上比	3Q 累計 実績	対売上比	前年 同期比	通期 計画	対売上比	前期比
売上高	10,560	-	9,448	-	-10.5%	13,600	-	-2.9%
ソフトウェア開発事業	10,332	97.8%	9,122	96.5%	-11.7%	13,233	97.3%	-3.4%
デジタルサイネージ事業	228	2.2%	325	3.4%	42.5%	366	2.7%	18.9%
売上原価	8,773	83.1%	7,636	80.8%	-13.0%	10,800	79.4%	-6.2%
販管費	1,503	14.2%	1,578	16.7%	4.9%	2,190	16.1%	10.2%
営業利益	283	2.7%	234	2.5%	-17.2%	610	4.5%	21.8%
投資事業組合運用益	144	1.4%	-	-	-	-	-	-
経常利益	455	4.3%	239	2.5%	-47.5%	610	4.5%	-10.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	265	2.5%	86	0.9%	-67.3%	390	2.9%	-5.1%

出所：決算短信よりフィスコ作成

売上高については、主力のソフトウェア開発事業が金融業界向け大型開発案件の一巡や、子会社で予定していた大型案件の期ずれが続いたことにより、前年同期比 11.7% 減の 9,122 百万円と 2 ケタ減収となったものの、アミューズメント施設向け設備工事の回復により、デジタルサイネージ事業は同 42.5% 増の 325 百万円と増収となった。

また、営業利益はソフトウェア開発事業が前年同期比 14.3% 減の 251 百万円、デジタルサイネージ事業が 18 百万円の損失（前年同期は 10 百万円の損失）となった。ソフトウェア開発事業では前期から継続している金融業界向け不採算プロジェクトの影響が残り、本体の利益は減益となったものの、自動車業界向け開発コンサルティング業務や証券バイサイド向けシステム開発ツールなど子会社で展開する一部の事業は好調に推移した。一方、デジタルサイネージ事業に関しては増収となったものの、外注費の増加により損失額が若干拡大した。

ソルクシーズ | 2018 年 11 月 26 日 (月)
4284 東証 1 部 | <https://www.solxyz.co.jp/investment/ir-news/>

販管費が前年同期比 4.9% 増となったが、主にエンジニアの採用費増や内部管理体制強化のためのコスト増が要因となっている。また、営業外では前年同期に計上した投資事業組合運用益 144 百万円が当期は無く、結果、経常利益の減益率が大きく拡大することとなった。

子会社別の損益動向を見ると、自動車業界向け開発コンサルティングが好調なエクスマーシオン、証券パイサイド向けシステム開発ツールが好調なコアネクストが増収増益となった一方で、主力商品の入れ替えが一巡したノイマンや受託開発案件の期ずれが影響したイー・アイ・ソルが減収減益となるなど、明暗が別れる格好となっている。ただ、イー・アイ・ソルについては当第 4 四半期に同案件の売上げを計上する予定になっており、通期では増収増益が見込まれている。

連結子会社の業績概況

会社名	売上高	営業利益	概況
インフィニットコンサルティング	－	横ばい	コンサル案件が堅調に推移するも、要員減により減収
エフ・エフ・ソル	横ばい	＋	受注案件の小型化により売上高は横ばい
コアネクスト	＋	＋	投資信託・投資顧問会社向けシステム開発ツールが好調持続
アスウェア	横ばい	－	IT インフラ投資は堅調だが、期ずれの影響残り減益
teco	＋	－	インターネット広告関連の収益性低下により減益
ノイマン	－	－	主力商品の販売伸びず、減収減益
エクスマーシオン	＋	＋	自動運転、ADAS、EV 関連の設計支援が好調持続
イー・アイ・ソル	－	－	受注は活況だが、期ずれの影響が残り減収減益に
インターディメンションズ	＋	－	売上げは回復するも、原価高により減益

注：売上高、営業利益の＋、－は前年同期比ベース

出所：決算短信補足資料よりフィスコ作成

2. 2018 年 12 月期業績見通し

2018 年 12 月期通期の連結業績は、売上高で前期比 2.9% 減の 13,600 百万円、営業利益で同 21.8% 増の 610 百万円、経常利益で同 10.7% 減の 610 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同 5.1% 減の 390 百万円と期初計画を据え置いている。第 3 四半期までの進捗率は売上高で 69.5%、営業利益で 39.2% と低いものの、前述した金融業界向け不採算プロジェクトや子会社で抱える期ずれ案件の売上げが当第 4 四半期に計上されることで、計画を達成する見込みとなっている。

不採算プロジェクトの状況について見ると、開発は既に完了している状況だが、収支面での調整が長引いている。このため、当該プロジェクトに関しては売上計上しておらず、仕掛品として計上されている。当第 3 四半期末の仕掛品が前期末比で 524 百万円増加しているが、増加分のお大半は同プロジェクトに関するものと見られる。同社の見込みでは当期末までに調整が収束し、売上計上される予定となっているが、2019 年以降にずれ込むようだと業績の下振れ要因となる可能性がある。また、当該顧客に関しては第 2 期プロジェクトの開発も既にスタートしており、2019 年 12 月期は利益面での貢献が期待されている。

ソルクシーズ

4284 東証 1 部

2018 年 11 月 26 日 (月)

<https://www.solxyz.co.jp/investment/ir-news/>

なお、SI/ 受託開発業務の受注動向について見ると、証券業界向けについては低迷が続くようなものの、大型開発案件が一巡した銀行向けについては、小型ではあるものの案件数が増えつつあり持ち直しの気配が見え始めてきた。また、クレジット業界向けについても不採算プロジェクトを除けば、セキュリティ対策の強化や QR コード決済対応等、新たなシステム開発需要が出てきており、受注も順調に推移している。一方、需要に見合うだけのエンジニアの確保や外注パートナーの掘り起しが引き続き経営課題となっている。

■ 注力分野の動向

FinTech、IoT、クラウド、自動運転、AI 分野を重点戦略分野に積極展開進める

同社は今後の成長戦略として、FinTech、IoT、クラウドサービス、自動運転、AI の 5 分野を重点分野と位置付け、積極的に事業展開に取り組んでいる。

1. FinTech

FinTech 分野では SBI グループで進めているブロックチェーン技術を活用した新たな金融システムの開発プロジェクトの受注獲得を目指している。SBI グループでは地方金融機関等と共同でブロックチェーン技術を使った国内外為替送金システムの実証実験を進めているが、証券業界向けでのブロックチェーン技術の導入検討も進めており、同分野での受注獲得を目指している。

また、2018 年 7 月に資本業務提携を発表したベンチャー企業のジーフィット向けに FX のシステムトレード用アプリケーション運用サービス「シストレクラウド」の開発支援も行っていく。「シストレクラウド」は、顧客が利用するシステムトレード用アプリケーションを顧客に代わって導入・設定・保守・運用するサービスで、簡単に FX のシステムトレードが始められるサービスとして注目を集めつつある。今回、ジーフィットに対して 3.8% の出資を行い、今後、両社で「シストレクラウド」の機能強化に向けた開発を進めていくほか、FX 取引所向けのシステム開発などにも展開していく。また、将来的には FX 以外の商品向け「シストレクラウド」を共同開発していく可能性もあり、今後の展開が注目される。

ソルクシーズ

4284 東証 1 部

2018 年 11 月 26 日 (月)

<https://www.solxyz.co.jp/investment/ir-news/>

2. IoT

IoT 分野ではイー・アイ・ソルが「IoT/ 予知保全システム」の提供を 2018 年 7 月より開始したことを発表している。製造ラインにおける工作機械等の異常を IoT 技術で事前に予知保全することを可能としたソリューションシステムとなる。生産設備の状態を音 / 振動 / 電流等の各種データを計測し、収集・解析することで異常時の判定をコンピュータ上で行うシステムとなる。計測デバイスは National Instruments の「CompactRIO」を、上位管理ソフトには Bosch の「Production Performance Manager (PPM)」を用い、同社の組込ソリューション技術を組み合わせることで、顧客ごとに最適な IoT システムを提供していくこととなる。現状は製造事業者の国内工場 1 拠点への導入にとどまっているが、今後、他の国内工場への横展開並びに、取引先企業への受注獲得を目指して行く。

また、高齢者向け見守り支援システム「いまイルモ」については、各自治体からの問い合わせが増えてきているが、収益貢献するまでにはまだ時間がかかりそうだ。現在は、顧客ニーズを聞きながら各種機能の拡充を進めており、商品力を高めている段階にある。

3. クラウドサービス

クラウドサービスについては、企業向けオンラインストレージサービスとなる「Fleekdrive」(クラウド型ファイル共有サービス)、「Fleekform」(クラウド帳票サービス)の拡販に取り組んでいる。契約社数は当第 3 四半期末で約 250 社(前期末比約 50 社増)と着実に拡大している。2018 年 12 月期末目標の 300 社には若干届かない可能性があるが、今後は海外市場の開拓により成長が加速していく可能性が出てきている。

資本業務提携先である豊田通商 <8015> のシンガポール子会社と販売代理店契約を締結し、ASEAN を始めとする欧米等の取引先に向けて、「Fleekdrive」シリーズの拡販を進めていく計画となっている。2018 年 10 月にはベトナムで初めて現地のリゾート開発企業との契約も決まるなど、営業強化の成果も出始めており、今後の成長が期待される。なお、競合サービスとしては、米 Box の「Box」がある。「Fleekdrive」シリーズの優位点としては、帳票機能サービスと組み合わせて利用できることや、共同編集作業を最大 5 人同時で行うことが可能な点が挙げられる。

今後は企業の業務効率向上に寄与するアプリケーション機能の開発・提供をアライアンスも含めて拡充していく計画となっており、同社では同事業が軌道に乗った段階で分社化し、将来的に株式上場を目指していくことになっている。

ソルクシーズ

4284 東証 1 部

2018 年 11 月 26 日 (月)

<https://www.solxyz.co.jp/investment/ir-news/>

4. 自動運転

自動運転等の次世代車載システム分野では、豊田通商と資本業務提携を締結したこともあり、今後はエクスモーションを始めとした同社グループとトヨタグループ（トヨタ自動車 <7203>）との取引拡大が進むものと予想される。自動運転技術に関しては自動車分野以外にも農業機械や建設機械での開発コンサルティング需要も旺盛だが、現在は、自動車業界向けの需要に対応するだけで手一杯となっており、コンサルタントの人員増強を進めていく方針となっている。なお、エクスモーションにおけるコンサルタント人員は前期末の 25 名から直近は約 50 名まで増加している。今後も高品質なサービスを提供していくため、当面は新たに加わったコンサルタントの育成に注力して行く方針となっている。

5. AI

AI 分野では 2017 年 6 月にアックスの株式を 14% 取得し、協業を進めている。アックスは自動運転用基本 OS である「Autoware」の開発サポートやコンサルティング、自動運転等に必要となる AI 技術の開発を手掛けるベンチャー企業。協業の取り組みとしては、2018 年 3 月よりコメリ <8218> グループのシステム開発会社である（株）ビット・エイに対して、AI 技術をビジネス活用することを目的とした勉強会を共同で実施した。今後は AI 技術を活用して、経営効率の向上に寄与するシステムの開発につなげていく。ビット・エイは同社の第 2 位株主で、かつ主要顧客の 1 社であるだけに今後、開発プロジェクトが立ち上がれば受注獲得が期待される。

また、「Fleekdrive」シリーズについてもアックスの AI 技術を活用した新機能の開発を今後進めていくことを検討している。ワークフローの自動生成や「Fleekform」の各種フォームの自動判定・編集業務に AI 技術を活用し、業務効率の大幅な向上を目指していく。

そのほか、2018 年 10 月には RPA 市場のリーディングカンパニーである UiPath（ユーアイパス）の日本法人、UiPath（株）と「開発リソース・パートナー・プログラム」※を締結したことを発表、今後、「UiPath」の導入企業に対して技術面でのサポートサービスを提供していく予定にしている。

※ 国内での「UiPath」の急成長を背景に、UiPath では導入サポートを行うパートナー（認定リセラー）とは別に、新たに技術面のサポートを目的とした「開発リソース・パートナー・プログラム」制度を導入、32 社がパートナーとして契約している。

ソルクシーズ
4284 東証 1 部

2018 年 11 月 26 日 (月)

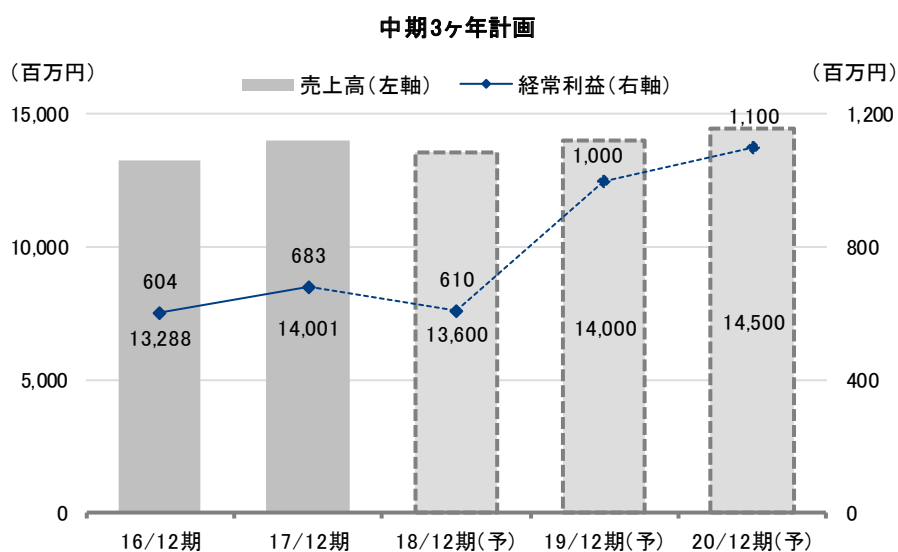
<https://www.solxyz.co.jp/investment/ir-news/>

■ 中期 3 ケ年計画

2020 年 12 月期に連結経常利益 1,100 百万円を目指す

3 ケ年の中期経営計画では最終年度となる 2020 年 12 月期に売上高 14,500 百万円、経常利益 1,100 百万円を目標として掲げている。経常利益率は 2018 年 12 月期の 4.9% から 7.6% まで上昇する計画となっている。重点 5 分野を中心に収益成長を目指して行く方針だ。利益ベースで成長率が大きく見えるが、これは 2017 年 12 月期及び 2018 年 12 月期においてソフトウェア開発事業で不採算プロジェクトが発生した影響によるもので、同要因を除けば利益についても着実な成長を見込んでいることになる。

ただ、当該プロジェクトについては当初想定よりもエンジニアが多く充当された影響で、新規開発案件の受注獲得がやや遅れ気味となっている。このため、2019 年 12 月期については売上高がやや伸び悩む可能性があるが、今後、受注活動を強化していくことで 2020 年 12 月期の目標達成を目指して行く方針だ。



出所：決算短信補足資料よりフィスコ作成

ソルクシーズ

4284 東証 1 部

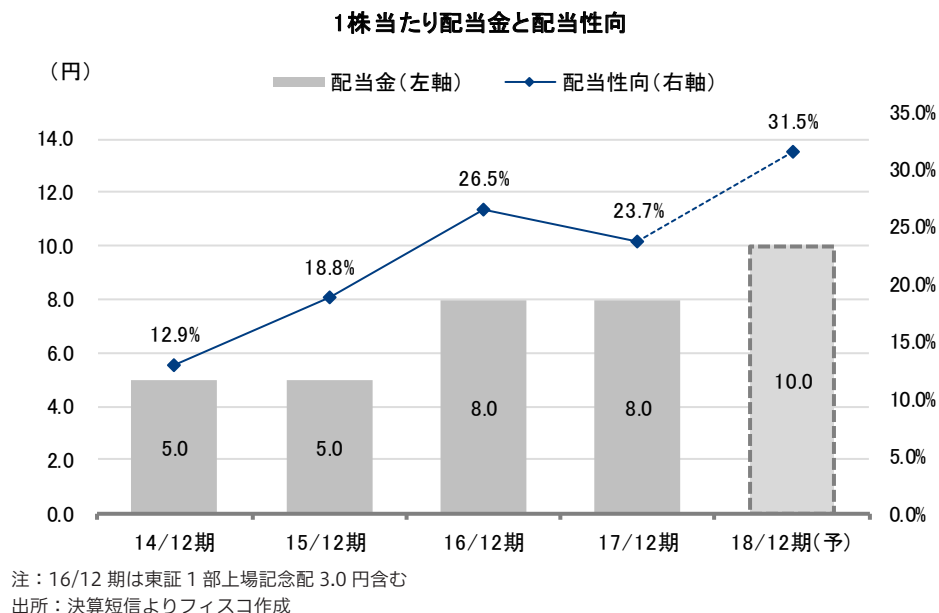
2018 年 11 月 26 日 (月)

<https://www.solxyz.co.jp/investment/ir-news/>

株主還元策

株主還元は収益に応じた配当で還元していく方針とする

同社は株主還元策として従来、安定配当を基本方針とし、別途、株主優待（お米の贈呈）を実施してきたが、2018 年 6 月末を持って株主優待制度を廃止し、配当による利益還元をより充実させていく方針を明らかにした。この方針変更に伴い、2018 年 12 月期の 1 株当たり配当金については前期比 2.0 円増配となる 10.0 円（配当性向 31.5%）を予定している。株主優待の廃止によって個人株主にとっては一時的に利益還元が減少することになるが、今後は収益拡大に応じて配当成長が期待できるため、中長期的に見ればプラスになるものと考えられる。



情報セキュリティ対策

同社グループでは業務の特性上、顧客情報を取り扱う立場にあり、情報漏えい事故等が発生した場合はグループの信用が損なわれ、業績に影響を及ぼす可能性がある。こうしたリスクに対して同社グループでは、ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）認証を取得し、情報セキュリティ基本方針を定め、従業員への遵守・徹底を図る等により情報漏えいリスクの軽減を図っているほか、最悪の事態に備えて情報漏えい賠償責任保険にも加入している。

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ